

農家



自分で作った野菜を自分で売っている農家さんもあります。

加工

キズがあったり、大きさが整わなかったり、作りすぎてしまった野菜は、有効に活用するために、調理し、加工品にします。加工することで、より価値の高いものへ生まれ変わります。また、商品を通じて野菜のおいしさをより多くの人に伝えることができます。



福岡・関西の市場

野菜によっては、大分以外にも福岡・関西方面の大都市へ出荷しています。



JA (農業協同組合)

農業協同組合は、農協とも呼ばれ、各農家から野菜を集めて、共同で出荷する役割を担っています。集めた野菜は地元の大分市公設地方卸売市場などに出荷しています。

商品性を高めたり、公平な取引をしてもらうために、農家が農協に出荷する野菜には、一定の規格が設けられています。

この他にも、農家への野菜の作り方の指導や農業に必要な資材をまとめて購入したり、農業用機械を購入する時に必要なお金を貸したりしています。



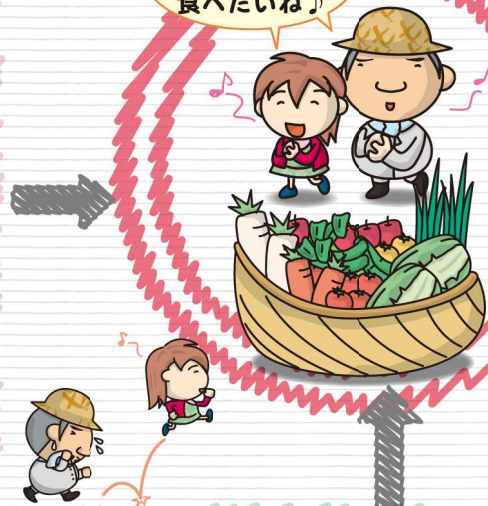
野菜が私たちの食卓に届くまで

直売所

直売所の野菜は、農家が自ら持ってきて、店頭で並べます。新鮮で、「作った人の顔が見える」安心な野菜を買うことができます。最近では利用する人が増え、市内でも多くの直売所が見られるようになりました。

また、農家自らが作った漬物などの加工品も販売され、それを目当てに利用する人も多くいます。

なるべく地元の野菜を食べたいね♪



スーパー



仲卸業者からさまざまな野菜などを購入して、トラックに積み込み、お店に持ち帰ります。商品として店頭で並べて、お客さんに販売しています。

商品にはどこで生産されたものかわかるように表示しています。

全国各地

輸入

海外から輸入されている野菜もあります。

卸売業者

卸売業者は、国内外の産地から届いた様々な野菜を受け取って、品目や等級別に分けます。作物は段ボール箱に入ったまま卸売場に並べられ、卸売業者は、せり・相対取引などを行って仲卸業者や売買取手に販売します。



仲卸業者

仲卸業者は、「せり」で買った野菜を市場内にある自分たちの店に運び、少量に分けて、八百屋やスーパー、飲食店などの市場に買出しにくる人たちに販売します。



市場

(大分市公設地方卸売市場)

市場には全国各地からいろいろな野菜が運ばれてきます。集められた野菜は卸売業者が「せり」などを通して仲卸業者などに販売します。

大分市公設地方卸売市場には、青果物、水産物、花の3部門があり、それぞれの卸売場で早朝から「せり」が開始されます。



せり人(卸売業者)の呼びかけに応じて仲卸業者などの買い手が指で値段を示していき、一番高い値段をつけた人がその品物を買うことができます。